●行財政改革等に関する市民意見の概要

計画全般に関する意見

・財政は赤字が続いていると思ったので、直近で黒字もしくは赤字でなく当初予算で±０となっているのを聞き、こうした取組は今後も続けていくべきだと思った
・以前からこうなることは分かっていたにもかかわらず、現在まで考えてこなかったのが問題かなと感じた。あらゆる問題を見直すことでムダを省けているので、今後も続けていただきたい
・収支均衡の継続性が気になる
・まちに安心が無さすぎる、観光業としてお金を取る仕組みと無料にして価値を提供する方向、とのバランスを取っていくことが必要だと思う
・今後も引き続き、安定した財政運営を進めていくべき
・京都市への解像度は上がったが、期待感という言われると中々イメージしにくい…まち全体を自分ごととして捉えるのがやはり難しい。コストカットばかりではなく、市の魅力創出をしていきたい。
・未来への不安は拭えない。継続できるのか。市民の負担は増えている。（バスなど）財政における平等は、果たして本当に平等なのか…市民1人1人の意識の変化が必要になる。
・自分で解決できるもの、自分1人では解決できないものを区別して、行政とうまく向き合っていく必要がある。
・市民の意見はどう反映されるのか。「こんな意見がたくさん上がったのでこうなりました。」みたいなのが見えるといい。まちとしてのゴールを明確にした上で、だからここに予算をこれだけつけました。みたいなものが明確に見えるといい。
・まちとしてのゴールが明確化されてない（伝わってない）から、税金が使われている理由・使われていない理由をしっかりと説明すべき
・収入の増やし方、支出の減らし方として行政が取り組んでいる大きな方向性は有るが、現場の人たちは率直にどう思っているのか気になる
・敬老パスが無くなり、高齢者が外に出かけなくなった。フレイル対策としてはどうなのか。保険料の増加につながらないのか。どんな施策にもマイナスな部分があるとおもう。それも加味して行財政改革の効果の結果はこれから出てくる。単年度の収支でプラスになったとしても、本当に正しかったのかが分かるのはこれから。
・そもそも自治体予算ってどう使われるのが理想かわからない、なんか目標となる姿が見えると良い。
・歳出の削減が目的なので市民に向けたアプローチが多いのは仕方ないが、市民ではない方に向かって利益が出る改革が多い印象を受けた。市民ばかりに負担を強いるのではなく、外からの歳入を視野に入れるないし市民への還元率を高める施策も重要なのではないかと思う
・取組を進めていくうえで、どのような問題が新たに見つかったかなど知りたい

●行財政改革等に関する市民意見の概要

広報広聴・見える化に関する意見
・若い方が真剣にまちの未来について話し合っていること自体に期待感がある。声をあげて何かが変わるかはわからないが、声をあげなければ何も変わらないので、声を上げることは大切。
・やはり若者の政治離れは深刻で、パブコメも年齢層が偏りがあるのが納得できた
・京都市の財政について、若者が考えることができるようなワークショップをもっと開催・企画してほしい
・住民が市の財政をもっと身近に感じる取組が欲しい
・学生（若い世代）に情報を提供し、行政に関心をもたせ、意見を聞く取組が良いと思った
・京都市財政について知らない市民が多いと思うので、知る機会を増やすことが必要かと思った
・約9000もの行財政改革に対する意見があったにもかかわらず、個々の事業に反映するとの回答が多かったようだが、実際にどう反映されたのか（特に敬老乗車証や子育て支援など）、京都市からのアンサーがＨＰに載っていないようなので、市民に明確に答えるべきだと思った。大学生は卒業したら地元へ戻る方も多いので、もっと市民らしい市民の方、子育て世代や高齢者など普段声を上げにくい人たちにもこのようなワークショップをぜひ開催すると有意義な市政が展開されるかと思う（若者なら京都の高校生はどうでしょう）
・収支均衡についても改めて知った、結果は大事だけど、その過程が見えてなかった
・自分が日々の生活で知っている・聞いている話と、京都市役所の話との間にギャップを感じた
・ずっと京都で育ってきたけど、なぜこのような財政状況に陥ったのかは気になっていた
・収支均衡は知っていたが、具体的な施策までは知らなかったので、企業誘致など市の施策が伝わるような仕組みがあるといい。
・市民の意識変容が大切。子供がいない世代も子育て、若者世代は高齢世代の施策など、自分に直接関係ない施策についても理解を持つべき
・まずは、市の現状を知ってもらうことが必要。行政は平等さも大切だが、ターゲットを絞って発信した方が良いのでは
・年代、ニーズが多様。高齢者支援に対して若者がどう理解するのか、相互理解が大切。理解してもらうために、行政がどう情報発信していくのかも大事。
・情報をどう発信していくかが重要だなと思った。ベストを探りながら頑張っていきたい。
・個人の意識変容が大事。行政は平等であるということも大事だけど、今日みたいな市民との対話の場は作り続けてほしい
・財政に対して無知だったな。無知だからこそ、こういう議論するの大事だけどこれから反映されるのか気になる。自分が市長だったら・市民だったら等のいろいろな立場に立った時の意見も聞いてみたい。
・良い町としてのバランスとは。自身は西院に住んでおり、地価上がって欲しいと思っているが、上がりすぎると住んでいる人が大変。町のバランスを見える化して欲しい。

●行財政改革等に関する市民意見の概要

行財政改革計画に基づく個別取組に関する意見

■官民連携
・官民で役割分担。民営化することで雇用が生まれる、増える
・もう十分に推進しているように思える。民間への委託は推進すべき
・民間に委託したほうがサービスの質が上がるし、コストも削減できる
・民間活力は限りがないため、今後更なる活用が見込めそう
・民間活力の活用や、補助金等の見直しの取組がムダや手間を削減するうえでよいと思った。しかし、これを推進しすぎた結果、人件費等のコストが今後上昇したことで、市民サービスが使えなくなってしまうことだけは避けなければならないと考える。そのため、推進しながら、その予防策や事柄の重要性を鑑みて民間活力の活用や補助金等の見直しをするべきだと思った
・最近、公民連携まちづくりについての本を読み、民間企業への業務委託によってかなりのコストを削減したというデータを見た。民間活力には限りがないと思うので、今後更なる活用が見込めそうだと思った
・民間活力の活用について。すべてを市が負担するのではなく、それぞれに適したノウハウや技術を持った民間と連携することで、市の負担も減り、それに加えて市民へのサービス向上へつながると考えられるため、好循環だと感じたこれからもっと民間と手を組み、改革を進めることでより持続可能な社会の実現に近づくと考えている
・予算の使い道の引っ張り合いではなく、どうよりよく使えるか、一緒にどう予算を広げることができるか、というアイデアが新しい官民連携になりそう
■ふるさと納税
・例えばふるさと納税の拡充は今でも十分成果が上がっている。プラスアルファで品目の拡充など行えばよい
・ふるさと納税の額が高いことは知らなかったので、その面で公共サービスにつなげていく取組は面白いし、かなり生産性があるのではと思った
・ふるさと納税は取組の結果が数字として出ている
・民間活力を更に活用していくことで、よりよいサービスが提供できるようになるのではと考えた。特にふるさと納税では、財源が確保されるだけでなく、国民が京都の産業等に触れる機会になる点で今後もより力を入れていくべきだと思った
・ふるさと納税による財源の確保と、返礼品の拡充や調達による地域の産業の活性化について、とてもよいと思った。財源が確保でき、かつ地域振興にもなり一石二鳥だと感じた
・ふるさと納税の税収増や返礼品の拡充等による地域産業の振興の取組はとてもよいと考えた
・ふるさと納税に関する返礼品の拡充や、粗大ごみの回収申込をインターネットで可能にするなど、市民の利便性につながる取組がなされていて、良いと感じた。
・最近になってふるさと納税が話題になってきたと思うが、今後もそこから得られる収入を維持できるのか、持続可能性があるのか疑問に感じた。学生の占める割合が大きく納税者が少ない京都市だからこそ、市民以外から得られるふるさと納税のような税収に力を入れていくべきだと考えた
・京都ブランドを強化する。節税の理由以外のふるさと納税の打ち出し方があってもいいのでは？（学生時代に京都に住んでいた人の、「青春納税」などはできないか？）

●行財政改革等に関する市民意見の概要

■受益者負担の適正化
・コストカットの仕事ばかりすると、みんなネガティブになっていく
・時代や物価変動に合わせるべき
・長期的な目線で見ると市民の負担大きい
・もっとほかで頑張るべき
・無駄だと思う
・人数（人口、受益者数）の変化によって進めていくべき
・ニーズに合わせてやっていくべき
・手数料はいいが補助金を減らすのはマイナス
・市民の税金が使われていると認識
・文化、オーバーツーリズムに対する費用削減に反対
・敬老乗車証について、制度が変わることで影響を受ける高齢者が多いと感じた
・施策等の見直しは世代間の公平性といった観点から必要
・利用者ニーズの多様化に合わせた見直しは必要
・時代の変化に適応するべき
・今にあったようにアップデートすべき
・過去と今との定義づけ（事業の目的・対象・規模等）の違いがある
・敬老乗車証が使える場合と（京都バスなど）使えない場合がある。その違いが難しい（ので更に事業検討を進めるべき）
・社会の情勢、経済状況に合わせた補助金やイベントなどの料金の見直しの取組は特に良いと思った
・敬老乗車証の利用対象者は限定したほうが良いのではないかと感じた
・敬老乗車証制度の見直しや手数料の見直しの取組が良いと思った
・これ以上の推進は現状維持が困難になるおそれ
・敬老乗車証制度については、年齢引き上げよりも年齢に上限をつけるべきではないか
・市バスの敬老乗車証や料金の一律性が最初は魅力的に感じていたが、よく調べると前者は料金の安さ、後者は嵐山～四条間の遠距離でも変わらなかったりと、住民からしたらよいのかもしれないが、客観視してみると財政圧迫がすごく感じられる施策なので、どういった意図があるのかわからないが、市バスはもっと改革できる点があるように感じる。具体的には、敬老乗車証料金の見直し（昨年変更があったが、まだ安いように感じる）、他都市のように乗車距離に応じて乗車料金が上がっていく仕組みにしていくなど。市営地下鉄などにも色々活用できる点があ
・敬老乗車証については、今後、年齢の引上げが多くなっていくことから、制度に限界がくると考えた。敬老乗車証制度ではなく、高齢者に対する外出促進をするうえで、万歩計の配布が適しているのではないかと思った
・国や他都市の水準を上回って実施している施策等は、京都市で生まれ育った友人の多くは水準を上回っていることを全く知らないことが多いので、その点についての周知・ケアはもっと取り組んでも良いように思う
・敬老乗車証の見直しがとてもよいと思った
・国や他都市の水準を上回って実施している施策等の見直しの取組が良いと思った
・この改革をする前にもっとやるべきことがある
・過剰な推進はよくない
・敬老乗車証制度は高齢者の免許返納が推進されているので逆に妨げになるのでは
・公的ケアに対するコストカットを行うのはそもそも行政の役割を果たしていない
・学童クラブなどの利用者の利用する（経済的な）背景と利用料引上げは見合っていない
・学童クラブなどは無償化してもいいのではないかと考えたので
・敬老乗車証の現行の方法（見直し）に疑問を抱いた
・見直しを推進しすぎると京都市に住みたい人が減りそう
・敬老乗車証に関しては、乗るたびに割引運賃を適用するスタイルに転換するのはどうか
・敬老乗車証制度をあまり見直しすぎては、車を運転しだす高齢者が出てきそうだと思った。今日、高齢者ドライバーの事故が多いので不安に思う

●行財政改革等に関する市民意見の概要

■受益者負担の適正化
・サービスの見直しを行うのには反対もあったと思うが、実施したのは思い切りがあってよいと思う。しかし、サービスの見直しをしすぎると反対に人口流出を招くおそれもあると思った
・敬老バスや学童クラブの利用料見直しに関しては、やりすぎると他都市に人が逃げていくのではないかと思った
・社会の変化に適応していると評価
・敬老乗車証制度により事業費が増大した点について、お年寄りは他都市も増えているはずなのになぜ京都市だけ事業費がこんなにも多く増えるのか
・今の環境に合うように見直すべき、影響が大きいものは特に
・国全体として物価などが上がっているのだから、定期的に見直すべき
・応益負担に力を入れていることが分かりとてもよかった
・補助金・イベント、使用料・手数料の見直しや、国や他都市の水準を上回って実施している施策等の見直しは有効だと思った。時代の流れに沿って見直しを行う必要があると思う。平均寿命が延びていたり、全国的に（物価等が）値上がりしていたりするので変えていくべきだと思う
・必要ないところに払っているお金を見直して点検してもらいたい
・間接的に（税金として）払うことは不公平に感じる
・シビックプライドが減少してしまうおそれを感じた
・ほかのものを先に推進してほしい
・補助金イベント等の見直しについて。自治会活動等は近年の潮流では必要ないという考えも一定あり、その考えに基づいて、補助金の削減が進むか進まないかで地域団体等からの評価は分かれると感じた
・公共サービスと民間サービスがバッティングする領域は価格差を是正していくべきでは（どうしても負担できない人に限るとか）

●行財政改革等に関する市民意見の概要

■ＤＸ
・手続のオンライン化は便利で助かる
・高齢者や地元企業等はデジタル化についていけるか
・ＳＮＳなどはデータ障害などが起こったら困るので、全てをペーパーレスにする必要はない
・対応できない方がいた場合はより業務が増えてしまうのではないかと感じた
・今後すべての分野で必要になってくるのと思ったので、更なる推進をお願いしたいと思った。キャッシュレスやペーパーレス、ＡＩを導入するなど現代社会の波に乗って進めていただきたいと思った
・ＤＸは全国でも進めている対策
・お金がかからない（初期費用だけで済む）
・行政手続きの効率化により受付の人が不要になり、人件費の削減を図ることができる
・ＤＸを推進することで書類申請の申込みをネットでできるなど、市民の利便性を図ることができる
・経費を節減し、歳入を増やすことができる
・業務効率化により、よりよいサービスの提供と人手不足の解消が可能
・「業務効率化やＤＸの推進」の取組が良いと思った。改革を行うことによる効果として、市民にも利益がある点や、改革に要するコストが大きくない点がメリットとして大きいと思った。実際の話を具体的に伺うことができ、とても参考になった。改革の結果がでていてすごいと思った
・時代に合っている
・ペーパレス化で環境にも配慮、SDGs
・事務を効率化させることのデメリットが特にない
・デジタル化を進めることによってより便利になりそう
・より市民のニーズがわかりそう（詳しいデータが手に入るから）
・行政側も楽だし、市民側もオンライン化で楽になる
・書類とかだとあまり読む気になれないが、オンラインだと手順とかに沿って進めやすい
・窓口の混雑緩和につながると思った
・効率化を進めることで時間外労働も減り、人件費削減にもつながる
・社会全体でIT化が進んでいる中、ICTをうまく活用することで京都市行政が存続しやすいと思う
・働き方改革にもつながると思った
・ＤＸ化へのコストはかかるが、それ以上の効果が得られそう
・様々な分野に活用していける
・公共料金をキャッシュレスで支払うことができるため。また、スマート市役所への取組なども今年度からはじまっている
・行政のDXの推進はすごくいい取組だと思った。書類などに目を通すのが苦手なので、手続きのオンライン化はとてもありがたいし、人件費削減にもつながるということで、これからも進むといいと思う
・業務効率化やDXの推進は個人的により進めてほしいと思った
・行政手続のオンライン化が進むと市民の負担が減少し、より活動しやすくなると思う
・DX化は今あらゆるところで注目されており、推進していけば業務効率化や市民生活がより便利なものになると思うので、特に期待する取組である
・DXの取組は、推進されている世の中なので非常に良いと思う
・DX化は職員の皆さんの働き方改革にもつながるうえ、市民の立場から見れば、混雑の緩和や足腰が悪い方も取り組みやすい政策でより良いと思った
・業務をICT化したり手続きをオンライン化することで、職員にとっても市民にとっても無駄な作業が減り、将来的にも重要性が高いと感じた。しかし、学生や若い世代にとってはオンライン化は簡単で便利な機能だが、高齢者にとっては慣れていない分野なので広めるのが難しいと感じたが、それはどうやって支援やサポートをしていくのか疑問を持った。デジタル化の時代の中でどの世代でも便利だと感じる方法があるとより良いと感じた。

●行財政改革等に関する市民意見の概要

■公共施設の総量の縮減
・ちらばった施設を１つにすることで便利にはなるが、施設の解体にもそれなりに解体費用がかかる
・公共施設の削減について、図書館の縮減が挙げられましたが（※図書館を縮減するという説明はしていない）、ただ減らすだけではなく、本を集めて一か所大きな図書館をつくることで新しい観光地にもなり、市民サービスの質を落とすことなく有効活用できるのではないか。なお、市民のための施設であるので、市民以外の入場者は入場料を設定するなどの配慮は必要だと思う
・公共施設の総量の縮減や職員の削減は良いと思ったが、沢山人が来る市なので、本当に減らしてもよいのか気になった
・優先度低い
・企業の需要は少ない
・市民サービスの低下に直結、負担が大きい
・住民の生活への影響があるのでは
・土地の有効活用のため、店舗の出店を促進すべき
・いらないなら削減を
・人口減が進んでいるので減らすべき
・長くあったものがなくなると悲しい
・高齢化が進んでいる中、おじいちゃんおばあちゃんの憩いの場がなくなるのでは
・土地が空いてもそこから活用手段を考えるのに時間がかかる、壊すのにもコストがかかる
・現時点での施策を見ていて、もっと別の建物を建直しする必要があったと感じた
・京都市内にいろいろな公共施設が混在しすぎている。また、各施設には確かに利用者がいるので、どれを削減するのかはよく考えなければならない
・分庁舎の追加費用に削減の余地はあったと感じている。建設費については、インフレ等の影響もあり前後することが多い。一方で、分庁舎の追加費用は収容職員数が収まらないということだった。そのため、その人数にかかわる見積等はどのように決めているのか知りたい
・使用者の反発が想定される
・効果が見込めないのでは

●行財政改革等に関する市民意見の概要

■ネーミングライツ、資産の有効活用
・資産の売却や貸付について、売却先・貸付先の事業者によって周辺地域の住民の生活や住みやすさが変わってしまう（地元地域でスポーツ施設の建設が検討されたことがあり、反対運動がおこった。現在は公園になったが、スポーツ施設になっていたら環境が違ったと思う）
・京都市役所を撮影場所として使用を許可していることに驚いた。新たな形で（市庁舎が）市の経営にかかわっていることを知った
・節約よりも入ってくるものを増やすべき
・節減をある程度したならあとは増やす
・これによるマイナス面が少ないだろう
・市民負担が少ない点がよい
・企業にとってもメリットがある
・元々あるものを活用できる
・ネーミングライツなどはゼロをプラスにできる
・歳入につながる
・将来性がある
・資産の活用方法に関しては、市民との関係においてもデメリットがあまり見受けられないので、推進すべきと感じた。
・資産の積極的かつ戦略的な活用について、市民に対して直接の負担を生じさせることなく、また既存の施設の話題づくりなどの効果が期待できるネーミングライツがとても良いと感じた。公共施設の有効活用を更に進められるとよいと感じた
・ネーミングライツ制度や未利用地の売却・貸付等といった取組は非常によいのではないかと思った。ただ、それを行う際には需要がなければならず、それに見合うものである必要もあると思った（札幌ドームのネーミングライツの件がふと頭をよぎった）
・ネーミングライツをもっと推進したほうがいいと思う。推進するうえでのデメリットがあまりなく、企業としてもこちらとしてもメリットが大きいと思う
・議論の中で市バスや地下鉄の命名権というものについても意見が出た
・資産の積極的かつ戦略的な活用は京都市のブランドを活かした、ならではの取組であると感じた
・デメリットがないように感じる
・負担が少なく利益がでるように感じる
・ネーミングライツは新たな事業をする必要なく、収入が得られる
・未利用地の活用はいいと思うが（中国人など）買主借主の選定に気を付けるべきでは
・京セラ美術館やニデック京都タワーなどネーミングライツが使用されている施設は多い
・未利用地の物件の売却貸付に関しては、賃料を上げるなどして対応するべき。外国人投資家に京都の土地を安く購入されると、単に不動産として見られるだけになり、文化財や町屋が廃れていってしまう可能性が否めない
・ネーミングライツや撮影料の導入はデメリットがないように感じるので良いと思った
・ネーミングライツは市としても負担が少なく、市民にも負担が少なく取り組めそうなので良いと思った
・京都ブランドは非常に価値のあるものと他県の人は捉えると思うので、ネーミングライツももっと活用すべきだと思った
・個人的には施設の積極的かつ戦略的な活用の部分がとてもよいと感じた。特に施設におけるネーミングライツには、活用の余地があるととても感じていて、京都の価値ある施設を活用していくことができれば、とても有意義ではないかと思う。そして、未利用地の売却についても京都の魅力ある街並み等を利用する意味でもやるべきと思っ
・市有地の利活用について、利活用できない理由を市民も知る必要がある

●行財政改革等に関する市民意見の概要

■職員数総数の削減
・私たち市民にとって削減されると困る
・もっと削減できるところがある
・職員を大切にしないと市民と職員の仲が悪くなる
・今でも十分に削減が進んでいるので、急がなくていい
・職員数削減のために民間委託を進めると、その分民間事業者に負担が寄るのでは、事業者とのバランスを考える必要
・職員の負担が増える
・職員数削減による市民サービスクオリティの低下への懸念
・無理に削減してサービスを悪化させる必要はない、一定の度合いで十分
・これまで培われてきた物ごとを残していくことが必要
・もうこれ以上は減らさなくてよい
・働き手の不足への懸念
・一人当たりの負担増加の懸念
・人件費の削減だけに留めるのではなく、人材育成にもっと力を入れるべきでは
・人手不足が懸念される中、大丈夫なのかと感じた。京都市以外の話になるが、働き手の不足により困っている自治体もあるそうなので、少し不安に感じた
・職員の負担が増加している
・働き方改革と矛盾している
・市民サービスの質の低下を懸念
・優秀な人材を確保するのが困難になる
・市民サービスの低下
・行財政運営の負担になる
・業務の不能につながる
・職員数は世界的にみても少ないが、これ以上「小さな政府」必要？
・働き方改革との矛盾
・人手が減っているからこれ以上減らすと一人ひとりの負担が増えるのでは
・やはり公務員の縮小はすべきでないのではと個人的に感じた
・数を減らすのではなく給料を減額（例えば教職員は足りていない）
・他都市水準を上回る政策を京都市は提供しているのに、いきなり働き手を削減してしまうと、１人ひとりの負担がいきなり多くなる
・人を削減するのではなく、人件費を下げればいいのではないか
・削減された職員の行く先が不安になった
・市民サービスがおろそかになる（避難誘導、施設管理など災害発生時に一人当たりの負担が大きくなる）
・市民サービスと両立するなら削減しすぎなくてもいい
・優先的に推進すべき施策ではない
・今が適正人数ならばこのままでいいと考えた
・職員総数の削減で、削減による業務負担はどれほど出ているのか気になった
・人材削減を行ったあと、どのような影響があったのか
・大学生が多いものが京都市の特徴だと思うが、削減という改革をしてしまうと、かえって京都市に就職しようとする大学生の意欲が少なくなって県外へ流出してしまうのではないかと感じた
・人件費のことは考えてなかった。自分にとって見えなかった動きがあったことに気づいた
・人件費を減らしたり、職員数を削減したり、するべきではなかったのでは？（例：区役所の障害福祉課などの窓口はお昼に閉まっており、人数が少ない印象がある。）

●行財政改革等に関する市民意見の概要

■働き方改革

・長期的な目線で見ると役立つ
・働き方の無駄が減る
・残業時間減ると職員の負担も減る
・自分の時間が増える
・ワークライフバランスに資する
・職員の負担軽減に資する
・コスト減らすことが可能
・通勤のストレス減らすことが可能
・通勤時間を別の時間に使える
・災害時在宅で仕事ができる
・仕事中心の生活でなくストレス減る
・コロナが流行した際、リモートでも授業や業務ができると判明、リモートワークは高く評価する
・私たちが働く際のこととして評価できる
・若い人の意見表明として
・風通しが良くなる
・デメリットが少ない
・仕事とプライベートの両立が可能だから
・効率化かつ風通しよくなる

・時間外勤務が減れば、職員に余裕ができ、ヒューマンエラーが減る
・残業が減るのはよいこと
・働き方改革や、業務効率化やＤＸの推進がいいと思った。今の世の中で働き方の柔軟性や、働くことと人生のライフバランスがとれるようになっていくことは必要不可欠だと思うので、こういった取組は今後もどんどん進められるといいなと思った。その一方で、ＤＸに伴う高齢者へのアプローチや支援は必要だと思った
・必要だと考える取組は働き方だけではなく、働きがいにフォーカスした政策に力を入れるべきだと考えた
・（業務効率化が進むことは）職員、市民どちらから見てもメリットがある
・働き方改革の推進が進んでいて、結果も出ている点でが良いと思った。
・人出不足の中、人員削減しながらも財政改革につながっていて、業務効率化による働き方改革も必要だと感じた
・働き方改革やＤＸ化、資産活用の分野は個人的により推進すべきものだと感じた
・働き方改革の推進の取組が魅力的だと感じた。働きやすくなることで優秀な人材が集まりやすくなり、京都市の更なる発展につながると感じた
・働き方改革についての取組は、民間に促していくためにもまずは行政が手本となるべきだと思うので、このまま続けてほしいと思う
・行政の手続き自体がデジタル化されていて高齢者の方にもしっかりアプローチできていると感じるため、働き方もIcTを活用したほうがよい
・残業代が減る
・職員のモチベーションが上がる
・ICTはいずれやるべきだから早く取りかかるべき
・ワーク・ライフ・バランスの推進につながる

●行財政改革等に関する市民意見の概要

■その他
・京都市の財源で特徴的なのは宿泊税だと思う。インバウンドで観光客はコロナ前と比べて昨年度で７割ほど回復しているという話を聞いたことがあるので、宿泊税を増やしたり、という取組はないのかなと思った
・個人的な意見として、観光客の施設利用に対する利用料金と市民の利用料金との差別化を図るべきだと思う
・もっと儲かる取組をするべきだと思う。例えば、ふるさと納税やネーミングライツなど。歳出削減には限度、厳しさがある。不可能かもしれないが、人口の１割をも占める学生からお金を取るという大きな発想も試みるべきだと思う
・すべての施策を持続することは不可能だと思うので、子を産むような世代に集中した施策を取ることが、人口を増やすためには必要だと思う
・子育てや教育分野に関して支出を増やしていくべき
・子供へのサポートを手厚くしていくことで市外に流出している子育て人口を取り戻せるのではないか。学童保育の無償化や子供２人目以降の保育費無償化などできると思う
・寺社の拝観料に課税するべき
・観光客に、より多く宿泊税を課すべき
・京都市は観光都市なので観光地の入場料を京都市民と観光客で分け、観光客の方は少し割高にするなどは行ってもいいのではないか
・敬老乗車証制度がある一方、若者に向けた取組があまり感じられなかったので、もっと手厚くしたらいいと思っ
・地下鉄料金をバスより安くすることで観光地への移動手段となり、地下鉄利用者が増え収入がアップするのでは
・人口に占める学生の割合が１割程度であり、他都市と比べ納税者が少ないことで市民一人当たりの市税収入が低いことに対するアプローチとして、大学生が将来大都市へ離れないように京都に定住してもらえるような対策を講じることがよいと思った。そのうえで、職員数を減らすというのは、働き手が削減するため学生離れにつながるのではないかと思った
・京都市の交通にかかわる取組、観光にかかわる取組にもっと切り込むべきだと考える。観光客が多くて観光業などが潤うのはいいと思うが、京都に住む人たちが不便だと感じてしまうとこも多いと思う。もう少し京都の人たちが暮らしやすく感じられるような取組が必要だと思う
・学生が多いまちというところが特徴な京都市だが、何かメリットはあるのか
・入場料のような税金を海外から訪れる旅行客から納めてもらう政策を考えていた
・市バス・地下鉄は無限に改革するところがあるように思った
・大学生が多いということは、京都市に興味をもってもらえる若者が多いというチャンス（京都市に住んでもらえる可能性がある）なので、子育て支援に更に尽力していただきたい
・２歳児から入りにくいと言われる保育所の問題は切実
・観光客など、市外からの収入を確保すべき
・今住んでいる人たちの収益を増やすべき。
・子育て世代の人口を増やしたい
・京都市交響楽団が1000円でオーケストラやってる。それは民業を圧迫しているので、5000円払ってもらって4000円キャッシュバックとかにしてほしい。
・京都に住んでいる人が京都の事業者に払えるお金を増やしてほしい。市にはそこの動線を作ってほしい。
・芸術に対する支援が増えてほしい。